令和6年度（2024年度）第2回 熊本市公民館運営審議会

議事要旨

【開催日時】 令和7年2月14日（金）10:00～

【開催場所】 熊本市西部公民館 ホール

【出席者】

■ 公民館運営審議会委員

香崎 委員
澤田 委員
藤井 委員
安達 委員
境内 委員
前出 委員
清水 委員
栢木 委員
原田 委員
福島 委員
城島 委員

以上13人

■ 事務局

生涯学習課長 原武 尚子

公民館長

中央区 中央公民館 小島館長
〃 大江公民館 廣瀧館長
東区 託麻公民館 柳田館長
〃 東部公民館 水町館長
西区 西部公民館 本巢館長
〃 花園公民館 井戸館長
南区 天明公民館 藤本館長
〃 幸田公民館 松村館長
〃 富合公民館 緒續館長
〃 城南公民館 堀内館長
〃 南部公民館 山本館長
北区 植木公民館 林 館長
〃 北部公民館 石本館長
〃 清水公民館 大塚館長
〃 龍田公民館 岩本館長

以上16人

【次第】

- 1 開会
- 2 生涯学習課長挨拶
- 3 委員および職員紹介
- 4 議 事
令和6年度（2024年度）公民館活動について
- 5 閉 会

【議事要旨】

（事務局）

令和6年度（2024年度）公民館活動について

（委員長）

事務局から重点事項の実施業況や研究グループでの取組の発表があったので、それに対して各委員からご意見や感想、来年度に向けてのご提言などをお願いしたい。

（委員）

どの発表も興味深く、生涯学習は続けていくことが非常に大事だと感じた。最近、効率面を重視する風潮があるが、地域づくりや地域の方の学習といったものは長い年月をかけて形成していくものであり、続けていくことが何より大切だと思った。

家庭教育の専門なので、2つ意見がある。地域学校協働活動の推進ということで、様々な小学校と公民館が連携して取組を行なっているが、幼稚園や保育の場というのも学校教育法で定められた「学校」であるため、取組の範囲を拡大してほしい。

また、地域間格差があるとは思いますが、地域との関わりをこどもたちに体験してほしいため、公民館での取組をより多くの地域で行なってほしい。

（委員）

ここ数年、委員として会議に出席しているが、年々報告を聞くのが楽しみになっている。社会教育主事や運営に携わる人々の公民館活動に対する意義や目的といったものが共有され、深まっていると感じた。

自分は教職大学院にも関わっており、そこには市から派遣された現職の先生方もいるが、その先生方から「総合的な学習の時間で地域と連携したいが、どうすれば良いかわからない」という話が出ている。公民館の取組を現場の先生に知ってもらえるようにできないだろうか。地域と学校を結ぶ拠点として、公民館には頑張ってもらいたい。

また、素晴らしい取組をする中で、色々と課題も出ているようなので、次年度ではそのような課題をどう解決すればよいかに力をいれ、その結果や学びを報告してほしい。

(委員長)

ただ今、委員から、同じ熊本市の組織間や教育委員会の中でも連携が取れてないのではないかというご意見があったが、そこはいかがだろうか。

(事務局)

以前は、各公民館に生涯学習担当の先生方をお呼びして説明会を行なっていたが、業務のスリム化やコロナウイルスの関係で下火となった。現在は公民館ごとに担当する小学校を定め、6月ごろに社会教育主事が説明に行っている。学校によって反応は様々だが、教育委員会がコミュニティ・スクールを少しずつ広げていることもあり、今後も学校との連携や活動促進に向けて取り組んでいきたい。

(委員)

取組事項の9つの柱や重点事項の4つの柱に基づいた活動を行なっており、興味深い発表だった。特に横の繋がりを重視した連携を行なっていて、活動を深めていたところが勉強になった。また、資料中にあった「デジタル化の推進」について、先日新聞にも取り上げられていたが、北部公民館の健康体操のように、各地をオンラインで繋ぐ取組というのは非常に効果のある活動だと思う。

(委員)

地域と学校との連携とはいうものの、自分がいる団体で実際にやってみると、なかなかうまくいかないことがあった。報告内容を聞いて、今後は横の繋がりを意識し、他の団体との連携にも取り組んでいきたいと思った。

(委員)

自分は地域公民館の代表として出席しているが、今回の発表を聞き、限られた予算や人員でありながら（公設の）公民館はよく取り組んでいると思った。まちづくりセンター所長と公民館長が兼務となって数年経ち、地域の課題についての掘り起こしが進んできていると感じている。今後とも、このような活動を継続して取り組んでいただきたい。

(委員長)

委員よりまちづくりセンターと公民館の連携がよくできているというお褒めの言葉をいただいたが、現在どのように連携しているのか状況が分かれば詳しく教えていただきたい。

(事務局)

まちづくりセンターと公民館は別の棟ではあるものの、隣同士で連携ができていると自負している。所長と館長を兼務しているということで、地域の課題や、地域で活躍できそうな方の話が地域担当職員から出てくる。そのような内容に対して、社会教育主事がふさわし

い講師を提案したり、講座を開いてもらったりというように、地域の方の活躍の場を広げるという意味でも役に立っているのではないかと思う。私たちが地域のことをよく把握して、地域と公民館と学校を繋ぎ、活動の場をもっと広げていくということが一番の使命だと思っているので、これからも努めていきたい。

(委員)

本日の研究発表や資料から、各公民館で魅力的なことを行なっていることが伝わってきた。一昨年から委員を務めていて、ホームページをもっと充実できないかと意見を出したことがある。すると、本当に写真や内容が充実するようになっていたり、公民館の予約状況が分かったりと日々努力されていると思った。また、私のいる家庭教育学級でリピーターとして来てくれる人の中には、「講座の先生が良かったのでまた参加した」という人もいる。私のこどもたちも、私が講座に参加することを伝えると「あの先生が来るなら私も手伝いたい」と言ってくれる。

他にも、「イベントの内容がとても良かったので、自分がそこで学んだことを広めたい」と自主的に活動を始める方もいた。「公民館職員と利用者の関係を築く」と発表の最初に社教主事の先生が話していたが、まさにその通りだと思った。他の委員も述べていたが、このような取組は長期的に育んでいくものだと思うので、引き続き公民館には頑張ってもらいたい。

(委員)

昨年度 PTA の全国大会に参加した。その中でコミュニティ・スクールについての話があったが、やはり全国的に見ても熊本はその取組が圧倒的に遅れているという印象を受けた。進んでいるところは 70%、平均値で見ても 40%がコミュニティ・スクールだという中で、熊本はようやく取り掛かりだしたという状況。今後は PTA や教育委員会だけでなく、公民館とも連携して進めていけたらと思っている。

また、地域が取組を進める際に、学校からの協力が得られないとの意見がいくつかあったが、PTA の立場としては、学校だけではない部分で取組を行なっていることを知ってもらいたい。「すぐる」というアプリで、こどもたちに向けて連絡したいことを伝えることができる。学校によって使用頻度に差はあると思うが、私がいる中学校では、配信したいという要望があればできるだけお応えできるようにしている。このような取組があることを知っていただければと思う。

(委員)

地域や学校、公民館は、それぞれが独自のつながりや発信の方法を持っている。地域・学校・公民館がそのつながりや方法をうまく結び付けて活用できるようにすることで、更なるつながりや取組ができるようになると思うので、今後も邁進していただきたい。

(委員)

「楽しい」と思ってもらえる内容でないに興味を持ってもらえないということは往々にしてあるため、それをどうやって実現していくかが大事だと考える。その中で2つ質問がある。

まず、公民館というのは広く門戸を開いていないといけない場所ではあるが、一方でカスタマーハラスメントへの対策を考えていかないと、そこへ訪れる人だけでなく現場の方も大変だと思う。その対策や方針についてお聞きしたい。もう一つは、合理的配慮について、公民館では何か方向性が定まっているのかを教えてください。

(事務局)

カスタマーハラスメントについては、市のほうでも方針を定めたところ。公民館でも、ハラスメントに該当すると思われる事例がいくつか見受けられた。そういった事例があった場合には、それぞれの上司やその他関係各所へ相談・情報共有できるような体制づくりを整備中である。

合理的配慮については、そのような配慮が必要な方が来館された場合、その都度対応しているという状態。対応の方法については各館と情報共有を行っていく。

今年度については共生社会の実現というテーマで、主に外国籍の方への支援を行っていた。今後はもっとテーマを広げ、障がい者の方や支援団体の方からのご意見をいただき、より良い公民館のあり方を考えていきたい。

(委員)

公民館の利用者やその職員がお互いに気持ちよく利用できるよう、今後も公民館同士の情報共有に取り組んでほしい。

また、門戸を開くということで、こどもや障がいをお持ちの方、外国人の方など、どのような人でも公民館が利用しやすいように「ふりがな」での表記にも力を入れていただきたい。

(委員)

他の委員の皆様が様々な意見を言ってくくださったので、私は要望を一つ挙げたいと思う。近年、様々な犯罪が起こっており、それに巻き込まれてしまう人も少なくない。防犯の面で、警察や消防との連携をお願いしたい。

また、カスタマーハラスメントについては自分も聞きたいと思っており、事前に事務局へ質問を送っていた。利用者の安全を脅かすだけでなく、公民館の職員の心労や、貴重な人的資源の損害にもなりかねない。例えば、ハラスメントを行う人の中には、店舗間での対応の違いを指摘する人もいるという。公民館でもそのようなことが起こり得るため、公民館同士で情報共有し、対応の統一に取り組んでいただきたい。

(委員長)

各委員からご意見や質問、要望などがあったが、どれも今後の公民館のあり方に関わるようなものだった。公民館からの報告でも、今後の課題として取り上げられていたものがいくつかあり、それらを次はどう解決していくのかというのが大事になるのではないだろうか。引き続き、課題解決や研究に取り組んでいただければと思う。

また、話にもあったが「生涯を通じて」という点については、こどもと高齢者を対象に取り組んでいるものが多く、学生や現役世代へのアプローチというのがすっぽりと抜け落ちているという課題がある。全世代・一生涯を通じて関わっていくということについて、より検討を進めてほしい。

生涯学習と学校との連携という点についても、できている部分とそうでない部分があると思うが、例えば学校での総合的な学習の時間で公民館講座を活用してもらうことで、双方メリットが生まれるのではないだろうか。

そのほか、地域のネットワークの活用という話もあった。直接的につながることは難しいという場合でも、学校と地域、地域と公民館というように、仲介となる存在により、間接的につながることはできる。このような連携のネットワークというものを活用していただきたい。

カスタマーハラスメントへの対応も重要な課題だと思う。公民館は誰にでも門戸を開いている場所という性質上、ハラスメントを受ける対象として選ばれやすい。トップがきちんとした対応方針を定めることで、そこで働く人も安心して働くことができる。そのため、全体の方針というのを大事にしてもらいたい。

最後に触れられていた、ふりがな表記というのも大事な配慮だと思う。ふりがな表記があるなら読めるという非日本語母語話者は少なくない。より良い公民館づくりの一つとして、ぜひとも検討していただきたい。